東北大震災3.11から浦安市復興の10年を振返り

市川・浦安支部
鈴木 兼次

2011年3月11日私は地震工学の名古屋大学大学院教授福和先生の講義を受けておりました。

先生は【紙ぶるる】などの地震模型などで知られ各地で【災害に強いまちづくり】という講義をされています。

この日私は都内の高層ビル19階で講義を聞いていた、まさしく地震災害の講義中に揺れが来ました、偶然でびっくりしたのを覚えております。

その後ニュースが流れ大地震が東北であったことを知り窓から下を見ると大勢の人や車が右往左往しており大変なことになったと感じました。

その数日後、浦安市の悲惨な状況を知り建築指導課から事務所協会・建築士会の支部長さんが呼ばれ浦安市として対策本部の他、震災で液状化や傾きのあった建物の相談会を開催してほしいとの要請により、市川・浦安支部の役員と協議し浦安市と協力して震災の相談会を開きました、当初なんのマニュアルもなくはじめたためそれぞれの会員がバラバラな対応を取っていましたので市民の方々の不安をあおる結果になりかねないとすぐに支部役員、建築士会さんと協議して簡単な相談用のマニュアルを作成、これを基に説明を継続したのですが今度は相談者の人数が1日30組以上に増え、支部会員だけでは対応に限界を感じすぐさま事務所協会本部に応援をお願いいたしました。

この時各支部の応援があり本当に助かりました。協会各支部の会員の協力なくして復興支援相談会は成功しなかったと思います。会員の応援のありがたさを痛感いたしました。

相談者の人数を集計してみますとなんと800組以上の市民が相談に訪れたことになります。

その時のNHKの取材やテレ朝、週刊誌、外国のTV局の取材も受けました。それらの写真を探したのですが混乱の中でどこかに行ってしまったようです。

明海地区の突出したマンホール

当時の写真は富岡交番の傾いた写真と復興後の現在、それに明海地区のマンホールの突出した写真、さらに震災当時のディズニーランド内での避難したお客さんの不安げな様子です。

この他にも一般住宅地での液状化対策の復旧計画もありましたが浦安市と住民の災害復興支援会議を各地区で延べ1000回以上も開催したと聞いております。

一人の反対者のために液状化対策を断念した地区もあり液状化の復興はどの地区でも達成できませんでした。

その後浦安市の災害復興支援プロジェクトも解散となってしまいました。

浦安市のインフラ等は復興したもののまだまだ大地震に備えることはたくさんあるように思えます。

震災時の富岡交番　2011年3月12日

現在の富岡交番　2021年3月25日

震災時のディズニーランド内　混乱の様子